

令和 5 年度
海外研修事業

令和 6 年 1 月
公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団

目 次

I. 令和 5 年度 海外研修事業…………… P.1

<海外研修事業>

- (1) 令和 5 年度 海外研修の実施概要…………… P.2～3
- (2) 令和 5 年度 個別研修プログラム…………… P.4～10
- (3) 令和 5 年度 海外研修報告会の実施…………… P.11

II. 資料編 (昭和 45 年～令和 5 年)

<海外研修事業>

- (1) 海外研修生 合同研修・個別研修実施実績 …… P.12～13
- (2) 海外研修生 個別研修訪問国実績…………… P.14～15
- (3) 海外研修生 所属施設種類別・職種別人員実績…………… P.16
- (4) 海外研修応募者・合格者数…………… P.17～18
- (5) 海外研修生 県別人員数…………… P.19

I. 令和5年度 海外研修事業

【海外研修事業】

諸外国の福祉施設等における実習を通じて、専門的な知識・技能を習得し、我が国の社会福祉サービスの向上に資することを目的に、民間社会福祉施設等の直接処遇職員を募集（第49回生 2022年5.7～7.31）、選考審査（一次審査8月、二次審査9月）を経て3名を選抜、令和5年度はアメリカ合衆国カリフォルニア州において5日間の合同研修を含め約2か月間にわたる研修を実施。

なお、本年は新型コロナ感染症防止の観点から研修実施を3年間延期、待機していた第48回生3名の計6名により合同研修を実施。

<海外研修応募書類>

- ①応募調書
- ②履歴書
- ③研修テーマ
- ④所属施設長の推薦書
- ⑤英検・TOEIC等の成績証明書の保有者はその写し
- ⑥施設のパンフレット

<受講者資格>

- ①民間社会福祉施設等に勤務する直接処遇職員
- ②25歳以上55歳以下の者
- ③社会福祉施設における業務経験が通算5年以上及び引き続き福祉業務を続ける意欲のある者
- ④日常英会話能力を有する者

(1) 令和5年度（第48・49回）海外研修の実施概要

1. 合同研修期間：令和5年4月24日（月）～4月28日（金）

合同研修の実施国である、アメリカ合衆国サンフランシスコにて、カリフォルニア州公認臨床心理学博士 直井知恵氏監修のプログラムにより、4月24日から4月28日の5日間合同研修を実施、合同研修修了後の4月29日から各自個別研修をスタート。

2. 研修生（6名）

<第48回生>

①菊地 陽子（神奈川県 在職年数：24年）

所属・職種：社会福祉法人讃助の会 ハピネス茅ヶ崎 介護支援専門員
研修テーマ：地域包括ケアシステムでのチームケアでのマネジメント
手法について

個別研修期間：令和5年4月29日～6月22日

個別研修国：アメリカ、ドイツ、フランス、デンマーク、オランダ

②菊井 妙子（岡山県 在職年数：21年）

所属・職種：社会福祉法人旭川荘 療育医療センター 看護師
研修テーマ：治療・介護に携わる看護師の役割と多職種連携の実際に
について

個別研修期間：令和5年4月29日～6月20日

個別研修国：アメリカ、ベトナム

③中村 まい香（大阪府 在職年数：7年）

所属・職種：社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
作業療法士
研修テーマ：本人主体の支援システムの構築
－子どもの成長、発達に応じた支援計画の立案、子どもと
家族を支える多職種との情報共有手段の模索－

個別研修期間：令和5年4月29日～6月18日

個別研修国：アメリカ、フィンランド、デンマーク、イギリス

<第49回生>

④田中 邦子（兵庫県 在職年数：5年）

所属・職種：社会福祉法人三田谷治療教育院
阪神南障害者就業・生活支援センター 就業支援員
研修テーマ：障害者と仕事について
—海外における職業リハビリ及び障害者雇用の工夫を学ぶ—
個別研修期間：令和5年4月29日～5月26日
個別研修国：アメリカ、デンマーク

⑤鳥居 いづみ（岩手県 在職年数：7年）

所属・職種：社会福祉法人奥州いさわ会 多機能型コスモスの家
生活支援員
研修テーマ：知的障害を持つ人が地域で暮らすための環境整備と
サービス提供について
—サービス提供分野の垣根を超えた連携、地域との繋がり—
個別研修期間：令和5年4月29日～6月20日
個別研修国：スウェーデン、デンマーク、ドイツ

⑥古賀 保人（佐賀県 在職年数：12年）

所属・職種：医療法人徳隣会 ケアプランセンターとくりん鳥栖
介護支援専門員、理学療法士
研修テーマ：地域包括ケアシステムについて考える
—デンマークの包括的なアプローチについて学ぶ—
個別研修期間：令和5年4月29日～5月17日
個別研修国：デンマーク

(2) 個別研修プログラム(概要)

氏名	菊地陽子				
所属	介護老人福祉施設 ハピネス茅ヶ崎 介護支援専門員				
合同研修	アメリカ合衆国サンフランシスコ (4/24~4/28)				
国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
5月	アメリカ アメリカ 5/1 ～ 5/5	和みホーム、Keiai Health Care Center/ロサンゼルス	高齢者施設	高齢者施設の開設から地域とのかかわり方、個別支援を学ぶ。アクティビティオフィサーと同行し施設内でのアクティビティの取り組み方を実習する	チームで取り組む個別ケアマネジメントの手法や入居者との関わり方、アクティビティプログラム内容を紹介する
	ドイツ ドイツ 5/8 ～ 5/19	Alten-und service-zentrum westend/ミュンヘン	総合支援窓口	日本の介護保険との違い、社会資源の活用方法を学ぶ	社会資源の活用方法を紹介し、活用について話し合う。ボランティア活動への参画を検討する
	フランス フランス 5/22 ～ 26	Bürgermeister Gräf-Haus・Cafe Anchluss・Hufeland-Huus/フランクフルト	障害者高齢者施設、インターネットカフェ、高齢者施設	高齢者施設でのボランティアによるアクティビティ参加への見学、参加。ボランティアを主体とした施設運営の取り組み方を学ぶ	アクティビティの種類や実施方法の紹介、地域行事への参加、社会貢献への心がけをもつ。近隣地域のボランティアや社会資源情報を収集、活用を模索する
5月 ～ 6月	デンマーク デンマーク 5/29 ～ 6/17	Residence de la cite verte・Association Bien Etre /パリ・アズブルック	ユマニチュード認定施設、多目的ホームヘルプサービス及びケアサービス協会	ユマニチュードの認定施設を訪問し認知症高齢者に対するコミュニケーションの取り方とユマニチュードの5つのステップを学ぶ。フランスのユマニチュード協会の訪問	コミュニケーション技法や情緒の安定や動線活用方法に視点を置いた環境整備の取り組みを紹介し、生活環境の改善を話し合う
	ノーフンスホイスクーレ/ボーゲンセ	国民高等学校	デンマークにおける社会福祉の歴史と社会福祉制度、民主主義やICTシステム活用による情報共有について学ぶ	デンマークの社会福祉、介護環境の充実、情報の共有化、多職種連携、バックアップ体制の仕組みを紹介し活用可能な情報共有方法を検討する	
	Localcenter Rosenlgard・OK-foundan Guril Vibeke/オーデンセ	認知症ケアハウス	ノーマリゼーションの思想に基づいた自己決定の尊重と生活環境と支援の多様性とマルティメオ手法を取り入れた支援方法を学ぶ	早期介入による意思決定支援と自己決定の尊重に対する周囲の支援者の価値観の統一方法を再検討する。ポジティブな視点によるアセスメント、アプローチ方法の活用を試みていく	
オランダ オランダ 6/19 ～ 6/22	De Hogweyk Dementia village/ウェースプ	認知症ケア施設	日本の認知症ケアの将来に関する明確なビジョン、ケアの脱施設化とメディカルモデルからソーシャルモデルへの取り組みを学ぶ	「何が普通であるか」を常に考えることを意識し、地域との交流や個別ケアへの支援方法を模索する	
計 61日		訪問国 5カ国 訪問施設12カ所			

氏名	菊井 妙子				
所属	社会福祉法人 旭川庄療育医療センター 看護師				
合同研修	アメリカ合衆国サンフランシスコ (4/24~4/28)				
国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
アメリカ	5/1 ～ 5/5	Children's Hospital of Wisconsin / ミルウォーキー	子供病院	緩和ケアについて学ぶ（子供と大人の緩和ケアの違いについて）看護師の役割について	子供のために何が最善なケアであるかできるだけ早くからチームでサポートする 家族への声掛けや、家族の感情や思いを引き出すためのアプローチの実際について、一緒に行動し学んだので、家族へのコミュニケーション方法について取り入れていく
	5/8 ～ 5/11	Froedtert & the Medical College of Wisconsin Center for Advanced Care/ ミルウォーキー	成人総合病院	アメリカのホスピスケアについて学ぶ（日本との違いについて） 多職種や在宅医療機関との連携について	治療を完全に諦めるのではなく、治癒することを目的とせずに苦痛がないようにケアをすることが基本となる。（QOLの向上を目的としている考え方は、日本と同じである） 多職種との情報共有を行うために年一回のケースカンファレンスとともに、必要時はミニカンファレンスの活用を行う
	5/12	Kathy's House/ ミルウォーキー	患者・家族宿泊施設	施設内見学 宿泊する患者・家族がくつろぐことができるよう、施設内からは病院が見えない構造になっている 家にいるという安心感を持ってもらえるような環境作りについて学ぶ	自施設にも家族が宿泊できる部屋があるが、宿泊する家族がリラックスできるような環境作り（例えば部屋にリラックスして座れるようなソファーの設置や季節を感じることができる写真を壁にかけるなど）の検討を行う
	5/15 ～ 5/18	Children's Wisconsin Corporate Center / ミルウォーキー	複合ケアプログラム施設	入院中は朝のカンファレンスに担当者が出席し、健康な時には家でどのような生活を送っているか情報共有を行い、退院前などケアプランが変更になる時は病院のチーム、家族、Complex Careチームがカンファレンスを行っている場面を見学した	入所者の他院への転院時や退院時に自施設へ戻って来る時など、他施設の地域医療センターとの効果的な連携方法を検討していく また、短期入所者情報の効果的な活用方法や自施設の地域医療センターとの連携方法の再検討を行う
	5/19	Froedtert Hospital/ ミルウォーキー	成人総合病院	入院中の栄養管理、摂食嚥下機能評価について学ぶ 栄養のスクリーニングとして、主観的包括的評価を使用しており、その評価をもとに栄養プランの組み立てを行うなどの内容を伺った	栄養のスクリーニングとして、自施設でも主観的包括的評価を取り入れている 摂食嚥下機能評価について、歯科医師の評価後に、言語聴覚士との連携の検討を今後取り入れていくことはできないか考えていく
	5/22 ～ 5/26	Bluemound Rehabilitation Hospital/ ミルウォーキー	リハビリ病院	チームは1回/週、カンファレンスを行い自宅復帰の課題を特定し、どのようにリハビリが必要か計画立案・修正・評価をチームで行うとのことであった	チームでのカンファレンス方法や討議内容の進め方など取り入れていく（有意義なカンファレンスになるような司会、進行の進め方）
ベトナム	6/5 ～ 6/9	National Children's Hospital/ ハノイ	子供病院	Surgical Cardiac Intensive Care Unit、Surgical Intensive Care Unitに訪問し、治療の実際について学ぶ（看護ケアの実際について）	看護師、支援課、多職種間で、日々のケアを行う上での協力体制の再確認、また、リーダー看護師のフォロー体制の再構築に取り組んでいく
	6/12 ～ 6/15	National Children's Hospital/ ハノイ	子供病院	Pediatric Intensive Care Unitに訪問し、治療の実際について学ぶ 家族への支援について学ぶ	一人ひとりの状態に合わせた体位管理について、医師、理学療法士、作業療法士とともに今後も実践・評価していく 臥位療法の効果をスタッフ間で再認識し、PTと協力のもと今後も取り入れる（合併症の予防など）
	6/19 ～ 6/20	National Children's Hospital/ ハノイ	子供病院	外来リハビリテーション部門に訪問し、治療の実際について学ぶ 15～20日間、リハビリを行いその後にチームカンファレンスを行い、継続治療の必要性や治療の評価・修正を行うとの説明を受けた	入所者の高齢化などにより、関節拘縮や筋肉の緊張増強などにより、骨折のリスクや新たな合併症を起こすリスクが高いため、個人のリハビリについてはチームや多職種を含めた評価・修正をタイムリーに行えるように取り組む
計60日		訪問国 2か国 訪問部門 9か所			

氏名	中村まい香				
所属	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター 作業療法士				
合同研修	アメリカ合衆国サンフランシスコ (4/24~4/28)				
国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月 アメリカ合衆国 4/29 ~ 5/22	Lynbrook High School/San Jose	公立高校	Paraeducatorへのインタビューと実際の支援場面を見学。特別支援教育におけるParaeducatorの役割や他職種との連携について学ぶ	Paraeducatorの役割や他職種との連携方法について学んだ。心理士などの専門家にすぐにアクセスできるような仕組みが整っており、相談しやすい環境が整備されているとのことだった	Paraeducatorの役割や他職種との連携方法について学んだ。心理士などの専門家にすぐにアクセスできるような仕組みが整っており、相談しやすい環境が整備されているとのことだった
	Christa McAuliffe Elementary School/San Jose	公立小学校	通常級の授業の様子を見学。通常級に在籍する支援を必要とする生徒への介入のあり方や環境調整に関する工夫、通常級の授業運営について学ぶ	通常級の運営にはボランティアとして保護者が関わっており、支援を必要とする生徒にも十分に支援が行き渡るよう工夫されていた	通常級の運営にはボランティアとして保護者が関わっており、支援を必要とする生徒にも十分に支援が行き渡るよう工夫されていた
5月	Sunnyvale Community Center /Sunnyvale	コミュニティセンター	発達障がいの子どもへのレクリエーションセラピー（グループセラピー）の見学と、その保護者へのインタビューを実施。セラピーの目的や内容、また障がい児支援を保護者がどのように感じているか学ぶ	レクリエーションセラピーでは、参加している子どもたちが活動に集中して取り組みやすいように内容や活動の流れを工夫していることを学んだ。保護者へのインタビューからは、IEPを用いた子どもへの支援方法に対する率直な意見を伺い、計画立案後、実際にやってみたことに関するフィードバックが重要であると感じた	レクリエーションセラピーでは、参加している子どもたちが活動に集中して取り組みやすいように内容や活動の流れを工夫していることを学んだ。保護者へのインタビューからは、IEPを用いた子どもへの支援方法に対する率直な意見を伺い、計画立案後、実際にやってみたことに関するフィードバックが重要であると感じた
	Flora M. Singer Elementary School /Silver Spring	公立小学校	学校で行われているOT場面や授業の様子を見学。学校におけるスクールOTの役割と多職種との連携のあり方について学ぶ	学校で求められるOTの役割として、道具操作や書字の学習、環境調整などが挙げられ、クラスの担任教師やST、心理士などと協力して生徒の計画を立案し介入していることを学んだ。また、教育現場にOTがいることで、学校での子供の困りごとに直接、そして迅速に対処できることを感じることができた。スクールOTが現在の職域を確保するようになっていった経過も学べたことで、日本の教育現場でも必要とされるOTの役割を推察することができた	学校で求められるOTの役割として、道具操作や書字の学習、環境調整などが挙げられ、クラスの担任教師やST、心理士などと協力して生徒の計画を立案し介入していることを学んだ。また、教育現場にOTがいることで、学校での子供の困りごとに直接、そして迅速に対処できることを感じることができた。スクールOTが現在の職域を確保するようになっていった経過も学べたことで、日本の教育現場でも必要とされるOTの役割を推察することができた
フィンランド 5/23 ~ 5/26	Longview School /Germantown	公立学校（特別支援学校）	学校で行われているOT場面や授業の様子を見学。学校におけるスクールOTの役割と多職種との連携のあり方について学ぶ	職員同士や外部専門家との連携には計画書などの文書や特別な会議だけでなく、普段から気軽に連絡が取れるような体制がとられていると学んだ	職員同士や外部専門家との連携には計画書などの文書や特別な会議だけでなく、普段から気軽に連絡が取れるような体制がとられていると学んだ
デンマーク 5/27 ~	Diamond Elementary School /Gaithersburg	公立学校	学校で求められるOTの役割として、道具操作や書字の学習、環境調整などが挙げられ、クラスの担任教師やST、心理士などと協力して生徒の計画を立案し介入していることを学んだ。また、教育現場にOTがいることで、学校での子供の困りごとに直接、そして迅速に対処できることを感じることができた。スクールOTが現在の職域を確保するようになっていった経過も学べたことで、日本の教育現場でも必要とされるOTの役割を推察することができた	学校で求められるOTの役割として、道具操作や書字の学習、環境調整などが挙げられ、クラスの担任教師やST、心理士などと協力して生徒の計画を立案し介入していることを学んだ。また、教育現場にOTがいることで、学校での子供の困りごとに直接、そして迅速に対処できることを感じることができた。スクールOTが現在の職域を確保するようになっていった経過も学べたことで、日本の教育現場でも必要とされるOTの役割を推察することができた	学校で求められるOTの役割として、道具操作や書字の学習、環境調整などが挙げられ、クラスの担任教師やST、心理士などと協力して生徒の計画を立案し介入していることを学んだ。また、教育現場にOTがいることで、学校での子供の困りごとに直接、そして迅速に対処できることを感じることができた。スクールOTが現在の職域を確保するようになっていった経過も学べたことで、日本の教育現場でも必要とされるOTの役割を推察することができた
5/23 ~ 5/26	Springbrook High School /Silver Spring	公立高校	学校で求められるOTの役割として、道具操作や書字の学習、環境調整などが挙げられ、クラスの担任教師やST、心理士などと協力して生徒の計画を立案し介入していることを学んだ。また、教育現場にOTがいることで、学校での子供の困りごとに直接、そして迅速に対処できることを感じることができた。スクールOTが現在の職域を確保するようになっていった経過も学べたことで、日本の教育現場でも必要とされるOTの役割を推察することができた	学校で求められるOTの役割として、道具操作や書字の学習、環境調整などが挙げられ、クラスの担任教師やST、心理士などと協力して生徒の計画を立案し介入していることを学んだ。また、教育現場にOTがいることで、学校での子供の困りごとに直接、そして迅速に対処できることを感じることができた。スクールOTが現在の職域を確保するようになっていった経過も学べたことで、日本の教育現場でも必要とされるOTの役割を推察することができた	学校で求められるOTの役割として、道具操作や書字の学習、環境調整などが挙げられ、クラスの担任教師やST、心理士などと協力して生徒の計画を立案し介入していることを学んだ。また、教育現場にOTがいることで、学校での子供の困りごとに直接、そして迅速に対処できることを感じることができた。スクールOTが現在の職域を確保するようになっていった経過も学べたことで、日本の教育現場でも必要とされるOTの役割を推察することができた
5/27 ~	Solakallion koulu/Helsinki	公立特別支援学校	授業の見学や校長先生からの講義を受ける。特別支援学校での教員や支援員、外部専門家の役割や連携方法について学ぶ	職員同士や外部専門家との連携には計画書などの文書や特別な会議だけでなく、普段から気軽に連絡が取れるような体制がとられていると学んだ	職員同士や外部専門家との連携には計画書などの文書や特別な会議だけでなく、普段から気軽に連絡が取れるような体制がとられていると学んだ
5/27 ~	Cäpsän toimipiste/Helsinki	生活介護事業所	活動場面の見学や利用者・施設職員へのインタビューを実施。利用者のライフステージに応じた支援のあり方について学ぶ	学校で使用していたコミュニケーションカードを生活介護事業所でも使用しており、年齢や場所を超えて利用者への支援方法が引き継がれていることを学んだ。また、職員同士の情報共有を大切にしており、普段から自然に話し合える環境作りの大切さを感じた	学校で使用していたコミュニケーションカードを生活介護事業所でも使用しており、年齢や場所を超えて利用者への支援方法が引き継がれていることを学んだ。また、職員同士の情報共有を大切にしており、普段から自然に話し合える環境作りの大切さを感じた
5/27 ~	NORDFYNS HØJSKOLE/Bogense	学校	デンマークの教育や福祉の制度や考え方に関する講義を受ける	保健師やソーシャルワーカーが障がい児の支援に重要な役割を担っていることを学んだ。また、個人が自分自身の意見を伝え合い、それを認め合う社会が構築されていることで仕事を円滑に行える環境が整っていることを実感した。	保健師やソーシャルワーカーが障がい児の支援に重要な役割を担っていることを学んだ。また、個人が自分自身の意見を伝え合い、それを認め合う社会が構築されていることで仕事を円滑に行える環境が整っていることを実感した。

	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
6月	デンマーク	5/27 ~ 6/10	Odense Værkstederne/Odense	生活介護事業所	利用者の希望に添えるよう様々な活動が用意されており、その活動場面や制作物などの見学を実施。	活動の選択は利用者自身が行うよう支援しており、利用者が選択した活動を遂行できるように職員の専門性を高めたり環境を工夫したりしていることを学んだ。
			Sneglehuset/Børkop	幼稚園	自然を生かした保育の様子を見学。園児との交流	保育場面を通して園児たちが自分の意見を発言し、また相手の意見を聞く経験を積んでいくことの大切さを学んだ
			Specialbørnehaven Solsikken/Aarup	公立特別支援幼稚園	実際の保育場面や幼稚園でのOT場面を見学。特別支援幼稚園におけるOTの役割や多職種との連携方法について学ぶ	幼稚園の中で個別OTで用いる評価法や集団セラピーで用いる治療概念などを学んだ。また、園児が小学校へ入学する際の情報提供の方法についても紹介していただいた
計	48	日	訪問国 4カ国 訪問施設 16カ所			

氏名	田中 邦子				
所属	社会福祉法人三田谷治療教育院 阪神南障害者就業・生活支援センター				
合同研修	アメリカ合衆国サンフランシスコ (4/24~4/28)				
国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月 アメリカ 5月 デンマーク	4/29 ～ 5/5	Easterseals Washington/シアトル	障害者支援団体	主に就労支援部門のプログラムを中心に、様々なアプローチを見学する。また、当法人での取り組みを紹介するなど、情報交換や意見交換も行う	バラエティに富んだ就活サポート、ジョブコーチ支援。雇用主との連携による定着支援。 →収集してきたアイデアを部署内で共有し、日々の実践に取り入れていく
		National Alliance on Mental Illness/シアトル	精神障害者家族連合	ピアサポート活動の取り組みを見学する	ECTについての認識。 →必要に応じて利用者に情報提供できるよう、部署内でも共有する
	5/6 ～ 5/10	Skyward Academy/シンシナティ	私立の中高一貫校	発達障害に特化した学校での療育的アプローチを学ぶ	学齢期における職業準備性の整え方。 →収集してきたアイデアを部署内で共有し、特別支援学校や就労支援サービス事業所などへ提案していく
		Newport on the Levee/シンシナティ	一般企業	採用、労務管理、職場定着など、障害者雇用における実践を参考する	障害者職員だけでなく、誰もが働きやすい職場づくりの工夫。 →雇用主に対して、個別の状況に応じた情報提供やアドバイスをしてく。 部署内では、ミーティングの頻度や内容を見直し、風通しの良い職場づくりの工夫を考える
	5/11 ～ 5/19	Venture House/ニューヨーク	精神障害者支のための地域活動支援センター	職業リハビリ、就労支援および生活支援を学ぶ。 また、障害者の居場所としての工夫を参考にする	バラエティに富んだ就活サポート、ジョブコーチ支援。雇用主との連携による定着支援。 →収集してきたアイデアを部署内で共有し、就労支援施設や雇用主に対して情報提供およびアドバイスをしていく
		Hasidic Community in Jewish/ニューヨーク	宗教団体	共同体における障害者と仕事に関わる考え方や対応を学ぶ	誰もが生活しやすい地域づくり。 →収集してきたアイデアを部署内で共有し、日々の実践に取り入れていく
		NYC Department of Health and Mental Hygiene/ニューヨーク	公立保健精神衛生局	ピアサポート活動の取り組みを学ぶ	ピアサポート活動のユニークな展開。 →必要に応じて利用者に情報提供できるよう、部署内でも共有する
	5/20 ～ 5/26	Tarnby Kommune Job Center/コペンハーゲン	行政による総合的雇用サービス機関	デンマークにおける障害者の就労促進施策を学ぶ	デンマーク特有の障害者就労促進のための制度の詳細。 →知識として自分の中に取り入れ、それらの土台となる発想をイメージし、障害者支援に関わる様々な立場や視点を持てるようにする
		Lavuk/コペンハーゲン	障害者支援施設	職業リハビリ、就労支援および生活支援を学ぶ。 また、当法人での取り組みを紹介するなど、情報交換や意見交換も行う	多機関連携によるシームレスなサポート。 →収集してきたアイデアを部署内で共有し、日々の実践に取り入れていく
		Habitus/コペンハーゲン	障害者支援施設	障害者の住居や余暇活動の支援を学ぶ。 また、当法人での取り組みを紹介するなど、情報交換や意見交換も行う	快適な住居や快適な日中生活のためのきめ細かいサポート。 →収集してきたアイデアを部署内で共有し、生活支援サービス事業所などへ提案していく
計 33 日		訪問国 2カ国 訪問施設 10カ所			

氏名	鳥居 いづみ				
所属	社会福祉法人奥州いさわ会 多機能型コスモスの家 生活支援員				
合同研修	アメリカ合衆国サンフランシスコ (4/24~4/28)				
国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
スウェーデン	5/2 ~ 5/5	JAG/Stockholm	パーソナルアシスタント協会	パーソナルアシスタント雇用者とアシスタントのインタビューを通して、実際の運用状況、雇用について、課題などを具体的に学ぶ。また協会で提供するプログラムについて学ぶ	パーソナルアシスタント雇用者とアシスタントの意思疎通頻度、方法について紹介し、活動一つ一つを当事者主体で行うことを意識していく
		大瀧昌之氏インタビュー/Stockholm	㈱北欧福祉研究所顧問	スウェーデンのノーマライゼーションの歴史、パーソナルアシスタント制度、障害者支援の職員の働き方などについてお話を伺い、理解を深める	職員の特技を生かした活動・製品について検討する。ノーマライゼーションの考え方、スウェーデンでの発展について紹介する
		Adolf Ratzka氏インタビュー/Värberg	自立生活運動の先駆者、パーソナルアシスタント雇用	パーソナルアシスタント制度制定までの動き、アシスタントの雇用の実際などについて伺う	パーソナルアシスタント制度が生まれるまでの歴史、自立に対する考え方などに当事者、家族が触れられるよう、制度について広く紹介していく
		Habilitering/Stoc kholm	ハビリテーリングセンター	意思決定支援のためのツールと訓練方法について学ぶ	スケジュール表を個別アセスメントのもとに活用していく。痛みや体の不調を訴えられるツールつくりをする
		Ersta Diakoni /Stockholm	障害者グループホーム	グループホームを見学、利用者・職員双方から生活の実際について学ぶ	グループホーム利用者の自由時間の使い方について、職員に啓発していく。改築、新築時に設備に関する提案をする
	5/8 ~ 5/12	Hökarängsskolan /Farsta	特別支援学校	授業を見学し、ヘッドティーチャーに、意思決定支援のツールの使用方法等について学ぶ	絵文字ツールを個別アセスメントのもとに活用していく。保護者への寄り添い方に学び、面接時の対応に生かす
		MISA/Stockholm	就労支援施設	運営方法と就労支援の手法について学ぶ	一般就労希望者や農福連携など、施設外での就労を希望する利用者向けの支援にISAメソッドを生かす
		Kirkebækskolen /Vallensbæk	特別支援学校	重複学級の授業を見学し、個々の意思表示の仕方について学ぶ。意思決定支援のために使用するITツール、ツールがない場合の方法について研修する	ITをすぐには導入できないため、傘など吊り下げるるものやカラーフィルムなど、すぐに作れるものを使って意思表示の練習をしていく
5月 ~ 6月	5/15 ~ 6/20	Magle mosen	通所施設 (STU、デイケア)	就労や自立につながる訓練、活動について学ぶ。屋内外のスヌーズレンの使用方法について学ぶ	自閉症スペクトラムの利用者向けの作業環境整備を参考にし、落ち着き、集中できる環境を整えていく
		Torvevej	ショートステイ	ショートステイ施設の見学、利用に至るまでの流れ、利用時の対応の仕方などについて研修。屋外スヌーズレンの使い方を学ぶ	刺激が少ない空間にすることで情緒の安定を図れるよう整備していく。屋外スヌーズレンの楽器を参考にし、手作りでできることに挑戦してみる
		Solgården	通所施設 (就労・介護)	屋内外のスヌーズレンの使用方法について学ぶ。子供のパーソナルアシスタントとして働く母親へのインタビューを通し、デンマークの制度の実際の運用について学ぶ	スヌーズレンの導入を検討する。絵画製作のアイディアを生かす。保護者会等でデンマークの障害を持つ子の親の生の声を紹介し、将来について考えるきっかけを提供する
計 60 日		訪問国4カ国 訪問施設12カ所			

氏名	古賀 保人				
所属	医療法人徳隣会 ケアプランセンターとくりん鳥栖 ケアマネジャー				
合同研修	アメリカ合衆国サンフランシスコ (4/24~4/28)				
国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月 デンマーク 5月	4月 デンマーク	ノーフュンスホイ スコーレ/ボーゲン セ	フルケホイ スコーレ	フルケホイスコーレの主にSOSUサブジェクト授業に参加し、デンマークの福祉や医療、教育の概要を学ぶ	デンマークの福祉、医療、教育の考え方を他の研修生とともに共有し、深める事ができた。デンマークの福祉、医療については院内のみならず、地域へも発信していく
		バンクミケルセン 記念財団/ボーゲン セ	記念財団	バンクミケルセンの提唱したノーマリゼーションの考え方、デンマークの歴史や今後の指針について講義を受けるとともに、他の研修生との意見交換	ノーマリゼーションという言葉の解釈を間違えており、理解を深める事ができた。ノーマリゼーションの考え方について事業所や院内でも共有し深めていく
		dokkx福祉機器/ オーフス	福祉機器展示	デンマークでも最先端の福祉機器が展示されており、見学、説明を受ける事ができた	機能的にはもちろん、福祉機器らしからぬデザインが非常に印象的であり、使用する側の心をくすぐるような機器が多く存在した。生活の自立支援に加え、対象者が心地よいと感じられるような住環境や空間を意識したアプローチを行っていきたい
	4/30 ～ 5/17	オーフス大学病院 介護士を訪問/オーフス	介護士を訪問	オーフス大学病院に介護士として勤務されている方の話を伺い、日本との違いについて伺った。	社会保健介護士という職種は日本ではなく、医療行為ができる介護士であり役割の違いを学ぶ事ができた。日本でも介護士への医療行為の研修はすすめられており、関係の構築をはかり、必要時にチームを形成できるよう連携を深めていく
		オーデンセ補助器 具センター/オーデンセ	補助器具セン ター	福祉用具の依頼から支給、サポートまでの一連の流れの説明、補助器具の見学を行った	日本とは貸与までのシステムが異なり、迅速かつ適切な環境整備である事に驚いた。特に、セラピストが相談役を担っており、依頼者側も安心してサービスを受ける事ができている。日本ではその役割をケアマネジャーが担うが、自身の福祉用具についての知識を深めるとともに、福祉用具相談員やリハビリスタッフとの連携を深める
		OK FONDEN/オーデンセ	グループホー ム	グループホームの概要や取り組み、認知症の方への対応(マータ・メオ)について説明を受ける	認知症の方の支援の仕方については直接的な対応のみならず、環境面でのアプローチが重要である事を学んだ。事業所や法人内のみならず、認知症カフェなど地域での発信の場にも趣き、伝えて行きたい
計 18日		訪問国 1カ国 訪問施設7カ所			

(3) 令和 5 年度 海外研修報告会の実施

1. 開催日時：令和 5 年 10 月 22 日(日) 10:00～17:00
 2. 場 所：JRA 新橋分館会議室
 3. 出席者：財団役員、OB 会役員、研修生 OB(Web 参加者、会場来場者) 計 55 名
 4. 報告者：第 48・49 回 海外研修生 6 名
 5. 研修報告
 - ① 12:15～12:50 菊地 陽子
 - ② 12:50～13:25 中村まい香
 - ③ 13:25～14:00 菊井 妙子
 - ④ 14:05～14:40 田中 邦子
 - ⑤ 14:40～15:15 鳥居 いづみ
 - ⑥ 15:15～15:50 古賀 保人
- 《全般について質疑応答》

- ▶ 研修生の研修内容、研修成果、帰国後の活動等については、ホームページに「令和 5 年度海外研修報告書集（第 48・49 回）」として掲載
- ▶ 今回は海外研修制度が創設されてから 50 周年を迎える記念企画として「海外へ学びに行く意義～福祉を当たり前にしていくために～」と題し、リモートにより 10:30 からアメリカの直井知恵氏（カリフォルニア州公認臨床心理学博士）に、16:00 からデンマークの Momoyo.T. Jorgensen 氏（ノーフュンスフォイスコレ副校長）、千葉忠夫氏（バンクミケルセン記念財団理事長）にご出席いただき、Web 参加者・会場来場者とともにパネルディスカッションが行われた。

II. 海外研修 資料編

(1) 海外研修 合同研修・個別研修実施実績 (昭和45年～令和5年)

年 度 (回 数)	研修生 (人)	合同研修		研修期間 (合同研修含)	個別研修期間
		日 程	研修地		
昭和45年 (第 1 回)	11	(合同研修は無)		3ヶ月	2/10～5/15
昭和46年 (第 2 回)	15	(合同研修は無)			1/3～3/31
昭和47年 (第 3 回)	17	4/14～5/5	デンマーク		5/6～8/18
昭和48年 (第 4 回)	11	3/30～4/21	デンマーク		4/22～6/18
		4/30～5/7	イギリス		5/8～6/27
昭和49年 (第 5 回)	13	3/29～4/11	イギリス		4/12～7/17
		4/22～5/3	オランダ		5/4～7/17
昭和50年 (第 6 回)	8	4/11～4/25	オランダ		4/26～8/31
昭和51年 (第 7 回)	7	4/24～5/7	アメリカ		5/8～7/16
昭和52年 (第 8 回)	8	4/16～4/30	アメリカ		5/1～7/23
昭和53年 (第 9 回)	7	4/1～4/15	デンマーク		4/15～7/10
昭和54年 (第 10 回)	10	4/20～5/4	デンマーク		5/5～8/20
昭和55年 (第 11 回)	5	4/12～4/26	アメリカ		4/27～8/6
昭和56年 (第 12 回)	7	4/25～5/8	アメリカ		5/9～8/25
昭和57年 (第 13 回)	6	4/17～4/30	デンマーク		5/1～7/31
昭和58年 (第 14 回)	8	4/16～4/29	デンマーク		4/30～8/1
昭和59年 (第 15 回)	11	4/28～5/11	アメリカ		5/12～8/19
昭和60年 (第 16 回)	6	4/13～4/26	アメリカ		4/27～8/4
昭和61年 (第 17 回)	6	4/5～4/18	デンマーク		4/19～8/20
昭和62年 (第 18 回)	7	4/25～5/8	デンマーク		5/9～8/21
昭和63年 (第 19 回)	8	4/9～4/22	アメリカ		4/22～8/31
平成元年 (第 20 回)	8	4/8～4/21	アメリカ		4/22～8/4
平成 2 年 (第 21 回)	11	4/28～5/4	デンマーク	↓	5/5～8/31
平成 3 年		中止 (湾岸戦争)			
平成 4 年 (第 22 回)	9	4/25～5/8	デンマーク		5/9～8/30
平成 5 年 (第 23 回)	9	4/3～4/16	アメリカ		4/17～8/28
平成 6 年 (第 24 回)	5	4/9～4/22	アメリカ	↓	4/23～7/26
平成 7 年		中止 (制度再検討)			
平成 8 年 (第 25 回)	5	4/12～4/26	デンマーク	2～4ヶ月以内	4/27～8/24

年 度	(回 数)	研修生 (人)	合同研修		研修期間 (合同研修含)	個別研修期間	
			日 程	研修地			
平成 9年	(第 26 回)	5	4/4 ~ 4/18	デンマーク	2~4ヶ月以内	4/19~7/26	
平成10年	(第 27 回)	7	4/11 ~ 4/24	ア メ リ カ		4/25~8/10	
平成11年	(第 28 回)	6	4/9 ~ 4/23	ア メ リ カ		4/24~8/8	
平成12年	(第 29 回)	8	4/1 ~ 4/14	デンマーク		4/15~7/31	
平成13年	(第 30 回)	6	4/21 ~ 5/4	デンマーク		5/4~8/20	
平成14年	(第 31 回)	6	4/12 ~ 4/26	ア メ リ カ		4/27~8/11	
平成15年			中止 (イラク戦争)				
平成16年	(第 32 回)	6	4/9 ~ 4/23	ア メ リ カ	4/24~8/8	4/24~8/8	
平成17年	(第 33 回)	5	4/10 ~ 4/21	デンマーク		4/22~7/8	
平成18年	(第 34 回)	5	4/17 ~ 4/27	デンマーク		4/28~7/16	
平成19年	(第 35 回)	5	4/10 ~ 4/19	ア メ リ カ		4/20~7/9	
平成20年	(第 36 回)	5	4/8 ~ 4/18	ア メ リ カ		4/19~7/9	
平成21年	(第 37 回)	5	4/19 ~ 4/28	デンマーク		4/29~7/17	
平成22年	(第 38 回)	5	4/27 ~ 5/2	デンマーク	5/3~7/18	5/3~7/18	
平成23年	(第 39 回)	4	4/12 ~ 4/21	ア メ リ カ		4/22~7/10	
平成24年	(第 40 回)	4	4/9 ~ 4/13	ア メ リ カ		4/14~6/11	
平成25年	(第 41 回)	4	4/15 ~ 4/19	デンマーク		4/20~6/14	
平成26年	(第 42 回)	4	4/22 ~ 4/25	デンマーク		4/26~7/13	
平成27年	(第 43 回)	4	4/6 ~ 4/10	ア メ リ カ		4/11~6/6	
平成28年	(第 44 回)	2	4/11 ~ 4/15	ア メ リ カ	4/16~6/10	4/16~6/10	
平成29年	(第 45 回)	2	4/24 ~ 4/28	デンマーク		4/29~6/24	
平成30年	(第 46 回)	3	4/23 ~ 4/27	デンマーク		4/28~6/24	
令和元年	(第 47 回)	3	4/22 ~ 4/26	ア メ リ カ		4/27~6/19	
令和 2年	(第 48 回)	3	コロナウイルス感染症の観点から研修を延期、R5年に実施 (令和3年度研修生募集を見合わせ)				
令和 3年			(令和4年度研修生募集を見合わせ)				
令和 4年			(令和5年度研修生募集再開)				
令和 5年	(第 49 回)	3	4/24 ~ 4/28	ア メ リ カ	3週間以上 2ヶ月以内	4/29~6/22	
計 328 人							

(2) 海外研修 個別研修訪問国実績 (昭和45年～令和5年)

区分	アメリカ	カナダ	イギリス	フランス	西ドイツ	オーストリア	オランダ	ベルギー	デンマーク	スウェーデン	ノルウェー	フィンランド	アイルランド	ポーランド	ハンガリー	ユーロスラビア	トルガル	ブルガリア	オーストラリア	ニュージーランド	イングランド	マレーシア	スリランカ	マレーシア	インドネシア	ケニア	スロベニア	ブルガリア	ロシア	キルギジコ	韓国	延人員	実人員
昭和45年第1回	5	0	4		2	2				3	3	2																			21	11	
昭和46年第2回	8	0	5	1	7				1		4		4	4	2															36	15		
昭和47年第3回	7	1	15	6	12	6	3	4	9	1	15	8	3	1					1		2	1							95	17			
昭和48年第4回	7	0	7	3	6	5		2				5	3	1	2															41	11		
昭和49年第5回	6	0	10	1	5	5	2		7	1	4	4	1	1																47	13		
昭和50年第6回	6	2	7	2	1	2	1	2	8	1	6	2	1																	41	8		
昭和51年第7回	7	4	4		2	1		1	1	1		2		1																24	7		
昭和52年第8回	8	2	5	1	3				1	1	4	1			1				1											28	8		
昭和53年第9回	3	1	4	1	2				1		2	2																		16	7		
昭和54年第10回	4	2	5		5	2	1		2		5	1							1										28	10			
昭和55年第11回	4	2	2	1	1	1						1		1																13	5		
昭和56年第12回	7	2	3	1	3	2		1				3	2	1						1										26	7		
昭和57年第13回	3	1	3		3	2			1		1	1		1															16	6			
昭和58年第14回	7	2	4	1	3	3	1		1		2	1	1						1										27	8			
昭和59年第15回	10	1	4	1	2				2		1	2																		23	11		
昭和60年第16回	6	0	2		1				1			2		1																13	6		
昭和61年第17回	5	2	1		2	1	1		1		1		1		1				1										16	6			
昭和62年第18回	6	3	6	2	2	2		1	1	1	4	3	1	2															34	7			
昭和63年第19回	7	3	2		2	1			2		2	4				1													25	8			
平成元年第20回	8	2	3	1		1				2		2																		19	8		
平成2年第21回	6	3	1	1	3		1				6	3	1	1					1				1							28	11		
平成4年第22回	7	2	6	1	2	1			1	1	1	5	4						1					1					33	9			
平成5年第23回	6	2	6		1	2			3		5		2						1	1									30	9			
平成6年第24回	4	0	2							2																				8	5		
平成8年第25回	2	0	2	1	1	1			2		4	1	1																	15	5		
平成9年第26回	3	0	3								2	2	1	1									1	1						14	5		
平成10年第27回	6	3	4								4	1																		18	7		
平成11年第28回	5	3	3	1							3	1	1																	17	6		
平成12年第29回	6	2	2		2	1			1		2	1						1	1	1									20	8			
平成13年第30回	2	1	3		1					1	1	3	1																	14	6		
平成14年第31回	3	2	1	1	2					1	2	2							1											15	6		
平成16年第32回	5	1	3						1	1	1	3	2						1										18	6			
平成17年第33回	2	1	1		1					2	3								1											11	5		
平成18年第34回	2	0	2		1					4	2																				11	5	

区分	アメリカ	カナダ	イギリス	フランス	西ドイツ	スペイン	オーストリア	イタリア	スウェーデン	オランダ	ベルギー	デンマーク	スウェーナーランド	ノルウェー	フィンランド	アイルランド	ボーランド	ハンガリー	ユーロラビア	ブルガリア	ブルガリア	オーストラリア	ニュージーランド	イングランド	マレーシア	スリランカ	マレーシア	スロベニア	ブルガリア	メキシコ	ロシア	韓国	延人員	実人員
平成19年第35回	4		1							1		2									1										9	5		
平成20年第36回	5	1	1									3	2									1									13	5		
平成21年第37回	1	4	2		1							3	2	1																14	5			
平成22年第38回	4	1			1							4	1	1																1	14	5		
平成23年第39回	4	1	3								1	2	1									1									13	4		
平成24年第40回	3		1		1					1		3																			1	10	4	
平成25年第41回			2	1	2					1	1	2	3	1							1										14	4		
平成26年第42回	1	2				2	1					2		1							2	1									12	4		
平成27年第43回	3	1	2				1					2			2							1									10	4		
平成28年第44回	2	1	1					1				2									1										8	2		
平成29年第45回	2	2	1		1							2																			8	2		
平成30年第46回	3	2			1							2									1	1									10	3		
令和元年第47回	2		1		1			1			1		1		1	1														1	10	3		
令和2年第48回	3		1	1	1						1		2		1																11	3		
令和5年第49回	1				1							5	1																		8	3		
合計	221	65	151	29	88	43	12	16	4	55	9	144	83	14	26	2	1	1	1	1	2	14	8	3	1	1	1	1	1	2	1	2	1,005	328

(3) 海外研修生 所属施設種類別・職種別人員実績（昭和45年～令和5年）

(施設種類別)

施設区分	研修生(人)
身体障害者更生施設	20
身体障害者療護施設	3
身体障害者授産施設	14
視覚障害者情報提供施設 (点字図書館等)	11
知的障害者更生施設	25
知的障害者授産施設	10
知的障害者通勤寮	1
肢体不自由児施設	32
重症心身障害児施設	24
知的障害児施設	27
児童養護施設 (養護施設・虚弱児施設)	31
児童心理治療施設 (旧情緒障害児短期治療施設)	3
母子生活支援施設 (母子寮)	5
乳児院	5
保育所	27
盲ろうあ児施設	1
特別養護老人ホーム	49
養護老人ホーム	11
養護(盲)老人ホーム	3
軽費老人ホーム	4
老人デイ・サービスセンター	2
救護・更生施設	4
精神障害者小規模作業所	1
特定非営利活動法人(NPO)	5
その他の	10
合計	328

(職種別)

職種区分	研修生(人)
指導員等	106
生活指導員	106
職業(作業・訓練) 指導員	6
児童指導員	53
心理判定員	12
理学療法士 PT	29
作業療法士 OT	13
言語聴覚士 ST	5
介護職員	12
保育士	34
医師	14
看護師	9
歩行訓練士	2
精神保健福祉士	1
点字指導員	7
栄養士	5
相談員(カウンセラー)	5
ケアマネージャー (介護支援相談員)	7
コミュニティワーカー	4
ケースワーカー	1
ソーシャルワーカー	1
その他	2
合計	328

(4) 海外研修応募者・合格者数(S45～R5年度)

回	年 度	応 募 者 数 (人)			合 格 者 数
		男	女	合 計	
1	昭和45年	10	5	15	11
2	昭和46年	32	7	39	15
3	昭和47年	25	5	30	17
4	昭和48年	20	11	31	11
5	昭和49年	23	10	33	13
6	昭和50年	17	11	28	8
7	昭和51年	16	8	24	7
8	昭和52年	11	8	19	8
9	昭和53年	8	8	16	7
10	昭和54年	16	3	19	10
11	昭和55年	14	1	15	5
12	昭和56年	17	11	28	7
13	昭和57年	12	10	22	6
14	昭和58年	20	4	24	8
15	昭和59年	12	7	19	11
16	昭和60年	13	5	18	6
17	昭和61年	11	5	16	6
18	昭和62年	13	6	19	7
19	昭和63年	16	9	25	8
20	平成元年	9	8	17	8
21	平成02年	12	8	20	11
	平成03年	中止(湾岸戦争)			
22	平成04年	19	14	33	9
23	平成05年	9	15	24	9
24	平成06年	4	13	17	5
	平成07年	中止(諮問委員会の答申を受け研修のあり方再検討)			
25	平成08年	6	8	14	5
26	平成09年	15	4	19	5
27	平成10年	6	6	12	7
28	平成11年	4	8	12	6
29	平成12年	7	5	12	8
30	平成13年	4	9	13	6
31	平成14年	8	5	13	6
	平成15年	中止(イラク戦争)			
32	平成16年	3	10	13	6
33	平成17年	9	7	16	5
34	平成18年	5	5	10	5
35	平成19年	8	4	12	5
36	平成20年	2	7	9	5
37	平成21年	4	9	13	5
38	平成22年	7	7	14	5
39	平成23年	6	15	21	4
40	平成24年	2	5	7	4
41	平成25年	2	8	10	4

回	年 度	応 募 者 数 (人)			合格者数
		男	女	合 計	
42	平成26年	5	7	12	4
43	平成27年	2	8	10	4
44	平成28年	1	1	2	2
45	平成29年	1	6	7	2
46	平成30年	1	5	6	3
47	令和 1年	3	9	12	3
		0	5	5	3
48	令和 2年	・新型コロナウィルス感染症拡大により海外研修実施延期、R5に実施 ・令和3年度研修生募集見合わせ			
	令和 3年	・令和4年度研修生募集見合わせ			
	令和 4年	・令和5年度研修生募集再開			
49	令和 5年	3	8	11	3
合 計		473	363	836	328

(5) 海外研修生 府県別参加人数 (昭和45年～令和5年)

県	人	政令市	人
北海道	6	札幌市	6
青森県	2	仙台市	
岩手県	2	さいたま市	
宮城県	2	千葉市	1
秋田県	2	横浜市	1
山形県	1	川崎市	1
福島県		相模原市	1
茨城県	1	新潟市	
栃木県	1	静岡市	
群馬県	5	浜松市	
埼玉県	16	名古屋市	2
千葉県	14	京都市	4
東京都	53	大阪市	25
神奈川県	19	堺市	2
新潟県	2	神戸市	10
富山県	2	岡山市	3
石川県	1	広島市	2
福井県	2	北九州市	9
山梨県	2	福岡市	3
長野県	1	熊本市	
岐阜県	2	計 70	
静岡県	3	合計 328	
愛知県	3		
三重県			
滋賀県			
京都府	3		
大阪府	25		
兵庫県	18		
奈良県	4		
和歌山県	5		
鳥取県	3		
島根県	3		
岡山県	11		
広島県	5		
山口県	1		
徳島県	1		
香川県	5		
愛媛県	1		
高知県	2		
福岡県	3		
佐賀県	7		
長崎県	2		
熊本県	2		
大分県	5		
宮崎県	2		
鹿児島県	3		
沖縄県	5		
計 258			